

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 医療法人 杏政会 グループホームそら
(ユニット名)

所在地 (県・市町村名) 鹿児島県薩摩川内市横馬場町8番11号

記入者名 (管理者) 田辺屋 望子

記入日 平成20年 5月 29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者およびグループホームの考え方は、開設趣旨や運営理念に具体的に明示されています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念はBS法を用い、全職員で話し合い決めたもので、朝の申し送り時に読み上げています。また、毎月定期的開催する各会議の場でも話し合いがなされています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	広報誌を定期的に発刊し活用する他、地域のボランティアや研修の受け入れ、地域参加の機会(散歩・買い物・行事参加等)に声かけを実施しています。		昨年度は、パンフレットを見直し、より理解して頂きやすいものにしました。今年度は、家族介護教室の主催を通じ、地域理解への働きかけを行なっていきます。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の商店や薬店、公園に利用者と訪れ、声をかけたり、話をしたりしています。友人・知人の方への声かけの他、広報誌を活用した職員のPR活動も行なっています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在、事業所として自治会や老人会に加入していませんが、地域の行事や施設利用を通して、日常的に地域との付き合いが行なえるよう努めています。		本年度も、地域の商店や喫茶店利用を通じて、交流の場を広げるよう計画しています。

鹿児島市 グループホームそら

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設の介護老人保健施設と共同で、家族介護教室を開催しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・自己評価担当職員は、職員に評価の重要性を伝える機会を作る他、評価を貴重な機会ととらえ、日常のケアの見直しに生かしています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度、ホームや地域高齢者福祉行政の代表者、実習受け入れ校の教授の他、ご家族の方にも参加頂いています。会議の内容は即座に反映されるよう、全職員への報告の機会を作っています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に、市町村担当者および学識経験者と定期的(2ヶ月に1回程度)に会合の機会を持ち、サービス提供の在り方、サービスの質の向上について話し合い、助言を得ています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	本年度内に、成年後見制度や地域権利擁護事業について学習する勉強会の開催を予定しています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内に「身体拘束廃止委員会」を設置しており、2ヶ月に1度学習や検討の場を持っており、理解と共有に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入居いただく際、事前に管理者や事務担当者より、説明を行なっています。また、御利用希望の方には、実際にホームに來訪し、雰囲気を感じていただく事をお勧めしています。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	毎年直接ケアに当たらない職員が聞き取りによるアンケート調査を実施しています。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	利用者の状況について、緊急時はその都度、日常の事については、來訪時や電話連絡時、ケアプランの説明時等に報告しています。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の意見を聴く機会として、行事实施後に家族会を開催しています。また、苦情・提案箱を玄関口に設置し、いつでも投函できるようにしています。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	運営者も参加する職員会議や、管理者も参加するミーティングの場において、職員からの提案・検討が行なえる体制を整えています。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	現在、日勤の時間差勤務と夜勤体制にて対応しています。状況により、他の利用者のケアに支障のない範囲において変更に応じられるよう、話し合いや調整する体制をとっています。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	利用者となじみの関係をつくるため職員の異動や離職は最低限にとどめ、新規や異動の場合でも認知症介護の基礎知識や現場体験を積んだうえで、ホームでの試用期間を設けるなど利用者への影響を最小限にする配慮をしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護の基礎的教育やパーソン・センタード・ケアの理解などは計画的に実施し、苑外研修の機会も確保している。また、管理者へは職員のメンタルヘルスに関わる研修やOJTによる現場教育についての実践に関わるアドバイスが得られる環境を確保しています。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、地域の中で同業者交流、他職種交流の機会を確保している。また、他施設からの実習も積極的に受け入れており、その際、お互いに意見交換する時間を持ち、サービスの質の向上に向けた話し合いをしています。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	メンタルヘルスおよびストレスマネジメントの研修を行なうと共に、同一敷地内にある事業所職員との交流(歓迎会、職員旅行、忘年会等)を行い、気分転換が図れるような機会をつくっている。また、職員業務量が過多にならないように配慮しています。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者による管理者および職員のヒアリングを定期的(年1回)に実施するほか、必要に応じて個別ヒアリングも実施している。また、資格取得や自己研鑽の支援も行っています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初めての環境における生活に対する不安は強いものである事を全職員が理解しており、利用される前に出来るだけ多く来訪いただけるよう、家族に求めています。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期利用における家族からの情報の重要性を、全職員が理解しており、今後も、本人と家族との良好な関係が保てるよう、積極的に相談に応じています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、入居の可否に関わらず、その時に必要と判断したサービスの紹介を行い、問題解決への支援を行っています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初期利用に際しては、入居いただく前にこのホームの雰囲気を知り、納得した上で御入居いただくよう出来るだけ御本人にお越しいただくようお願いしています。また、その時の反応、会話等でその方の多くの事を知り得よう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム内での活動は家事からその方の趣味や特技に至るまで、共同作業を原則とし、個々の状況に応じて参加いただいています。その際、スタッフは「これでいいですか」と、教えていただく態度で接し、感謝を忘れず対応しています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって家族は重要な存在である事を認識しており、ホーム内・外活動への参加促しや外出・外泊・面会等多くの場面で、本人と接していただく機会が増えるよう支援しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人にとって家族は重要な存在である事を認識しており、本人の現在の状況をより深く理解いただけるよう、説明や相談の機会を多く持つほか、友人・知人親戚の方にも理解と協力をお願いしながら、良好な関係が保てるよう支援しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人に日常的に接し、なじみの場所・人の把握に努め、会いに行ったり、逆に、来ていただく関係を作り、その際、家族にも協力いただきながら支援しています。(自宅訪問、近隣ヘドライブ、友人に会いに行く、地域行事・名所を見に行く等)		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の交流できる時間を多く持つよう機会を作り、トラブルが発生しないよう、適度にスタッフが関わりながら、1人1人が活躍し、支えあえる小さな社会作りに心がけています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後にも、気軽に来訪いただけるよう声をかけています。(病院・他施設へ面会や訪問等)		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のみならず、全てのスタッフが日常生活での関わりの中で、自然な形で希望や想いを汲み取れるよう努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中での情報はもちろんの事、家族や親戚、友人や知人にもプライバシーに配慮しつつ、聴取し、各会議等で情報を共有し、把握に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送り、ミニミーティング、各会議の場や申し送りノート等を利用し、日々の「気付き」をスタッフ間で共有できるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、介護に関わる職員が出席した場で話し合いが行なわれ、本人・家族との話し合いや検討し、承諾を経て決定される形態をとっています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しやケア検討の場(毎月1回)を設けるほか、必要に応じて、臨時に検討の場を設ける事もあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人録へ記入しており、毎日の職員会議やケアプラン検討会、ミーティングの場で情報を共有したり、介護計画の見直しに生かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所として、運営母体を中心に幅広いサービスの提供に努めています。介護保険サービスはもちろんの事、家族介護教室や文化祭等の地域活動、家族同行の遠足など運営母体を含めた事業所の多機能性を生かした支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在は、ボランティア受け入れを中心に、必要時、協力いただいています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	事業所として必要時には、ケアマネジャーや他サービス事業者とも話し合いを持ち、本人の生活に支障がないよう支援します。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員として地域包括支援センターに協力いただくと共に、日頃からセンタースタッフと協力的に本人支援のケアマネジメントを進めている。ホーム職員も権利擁護等について研修を受け、さらに地域包括支援センターの役割・機能を理解するよう努めています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、これまで利用されてこられたかかりつけ医の利用としています。		

鹿児島市 グループホームそら

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホームの協力医療機関として、Kメンタルクリニックと連携しています。利用者の受診が容易となるよう、定期受診は往診いただいています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームでは、常勤の看護職員を配置しており、日常の健康管理をサポートしています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居されていた方が入院された際は、努めて病院へ出向き、情報提供を行なっています。必要に応じ、病院関係者との相談も行なっています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者のこれからのについては、早い段階から本人や家族と話し合っており、退居等の判断はかかりつけ医や協力医療機関の医師にお願いしています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の重度化、終末期に対する支援はかかりつけ医や協力医療機関、併設施設(介護老人保健施設)の協力をいただきながら、今後について医師、家族、職員間で話し合いを持ち、決めています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居になった時など、移り住む際は利用者のこれまでのケアの状況や本人の詳細な情報を提供し、他所での生活に支障が起らないよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	当事業所として、運営母体と一体になり、個人情報の保護に努めています。(広報誌や研究発表等の利用は事前に許可をいただく。他入居者の記録や実習時にはイニシャルによる記載に統一。ホーム内書類の持ち出しの規制等)また、言葉かけや対応は利用者の尊厳を大切にしたいものになるよう努めています。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	全てのケアについて利用者に、その都度意思の確認や希望の聴取を行っています。(お茶時の飲み物、外出の希望、衣類の選択等)	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の1日の生活スタイルを全職員が把握し、それに基づいて、個々の利用者のその人らしい生活が送れるよう支援してします。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご利用者、ご家族の希望に応じて髪型・服装・お化粧の支援を行っています。また、ホームにも化粧品を準備しており、外出時に活用しています。理・美容については本人の希望にて利用先を選んでいただいています。(ビューティーヘルパー訪問利用等)	毎日の化粧やマッサージを重点的に支援し、利用者自身が楽しんで行えるよう必要物品を準備し、活用いただいています。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	原則として、調味料類の購入から実際の調理、食事、後片付けまで、スタッフと利用者が一緒に行なう事としています。また、食事には行事食や郷土のお菓子、希望のメニューを取り入れ、より楽しんでいただく食事作りに努めています。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	他入居者への影響も考慮しながら、出来るだけ好みのものを楽しめるよう、支援しています。本人の管理が十分出来ない方については職員にて管理しています。	

鹿児島市 グループホームそら

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>各利用者の排泄状況を確認し、皮膚の状況や本人の希望も考慮しながら能力に応じ、出来るだけオムツを使用せず、陰部を清潔に保てるよう個別に支援しています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は毎日入浴でき、利用者の体調・発汗等を考慮し、本人の希望に応じて入浴出来る様努めています。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>各利用者の1日のペース、体調、睡眠状態、活動状況に応じて、適切に休息が取れるよう支援しています。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>各利用者のこれまでの生活や活躍された出来事、楽しみ事をスタッフ間で共有し、チームとして日々の生活の中で引き出せるような場面を多く作れるよう努めています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>各利用者の金銭管理方法は、事前に本人や家族と話し合いきめており個別に支援しています。現在、ご自分で管理されている方や、職員で管理されている方でも、買い物等日常的に触れたり、使ったり出来るよう支援しています。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の方に希望をお聴きし、日常的に外出機会を作り支援しています。(散歩、買い物、行事外出、ドライブ、喫茶利用、デイケア交流等)</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>利用者の普段いけない所への外出希望を日常生活の中から聴取し、外出や訪問が実現できるよう、家族の協力を得ながら支援しています。</p>		

鹿児島市 グループホームそら

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は利用者が自由に利用できるようにしており、プライバシーに配慮しながら個別に支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問に関しては、いつでも自由に来訪できるようにしており、お茶を飲みながらゆっくりつるげる環境を作っています。宿泊も歓迎しており、宿泊用の布団も準備しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に「身体拘束廃止委員会」を設置し、2ヶ月に1度、学習や検討を行なっています。運営推進会議や受け入れている実習生からも率直な意見・助言をいただきながらケアに生かしています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	街中にある施設で周辺に不審者の情報もあります。利用者の安全の為、やむを得ず玄関を施錠していますが、外へ出て行こうとされる雰囲気を感じたら一緒に外出する等、施錠が自由な外出の妨げにならないようにしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各利用者の所在を常に把握出来るよう、日中はスタッフ間で情報を共有する為、声をかけあい、一緒に過ごす中でさりげなく様子をうかがい、夜間は、建物中央の食堂にいて、記録をしながらも確認が出来るよう努めています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や刃物、薬等は利用者によっては危険を及ぼす恐れがある為職員の管理下にありますが、共に生活する中で、職員の見守りの元で自由に使用できるよう個別に提供するようにしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個別の事故防止対策は、各利用者の介護計画に基づき行なわれ、発生したひやり・はっと事例は専用のノートに記入し情報を共有しています。事故発生時には報告手順が定められており、全職員で防止策の検討がなされています。		

鹿児島市 グループホームそら

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故発生時には対応マニュアルがあります。実践に生かす為、看護職員指導の下、毎年急変時対応法の勉強会を実施しています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と共同で避難誘導訓練や消火訓練、夜間呼び出し訓練等を実施する他、ホーム独自にも避難訓練を定期的に行っています。災害時に備え、食料(飲料水含)、防寒用品を準備しています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日常生活にて想定されるリスクについては、介護計画の検討時や来訪時を利用し継続的に家族と話し合いを持ち、安心した暮らしが送れるよう支援しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや日々の会話、利用者との握手の際等で確認している他、常に利用者の異変の発見に努め、その情報を共有出来るよう職員同士での声かけや申し送りノート等を活用し、対応に生かしています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は看護職員の管理のもと、介護に関わる職員が情報を共有出来るよう、申し送りノート、お薬手帳等を活用する他、受診時には医師に伝達出来るよう状態把握に心がけており、服薬の疑問点は医師以外にも相談できる薬店を確保しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄状況は可能な限り把握に努め、専用表に記録し、便秘の早期発見、予防に生かす他、便秘予防の1つとして、毎日のレクリエーション活動や水分の摂取促しに取り組んでいます。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	運営者と職員は口腔清潔の重要性を認識しており、利用者に毎食後、1人1人の能力に応じて、口腔ケアを実施しています。その他、口腔機能維持の為に口腔体操の実施や、必要時、歯科医師に相談しています。		

鹿児島市 グループホームそら

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の水分摂取量や食事摂取量を把握し、表に記入しています。嗜好品を活用する等、量を確保できるよう個別に工夫しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホームには感染症に対するマニュアルがあり、それに沿って対策が行なわれています。(手洗いうがいの励行、1日3回共有スペース・物品の拭き掃除・消毒等)		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は所定の管理場所を定め、定期的に消毒・漂白、冷蔵庫の整理や掃除を実施しています。生鮮食料品は食中毒防止の為、業者に配達いただくようにし、食材の長期持ち越しを防ぐよう取り組んでいます。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは民家改造型の利点を生かした家庭的な造りとなっており、建物の周囲には季節の草花や観葉植物が飾られています。車椅子等段差の出入りが困難な方の為に、スロープの出入り口もあります。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に確認しながら、テレビの音量や照明、空調や換気の調整を行なっています。共有スペースには、季節の草花や季節に応じた飾り物(利用者との手作り品も含め)を置き、より生活感のある空間作りに努めています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は、それぞれが自然な形で仕切られた構造となっており、1人1人が思い思いの場所で過ごせるよう工夫しています。		

鹿児島市 グループホームそら

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族になじみの家具や生活用品の持ち込みをお願いしており、危険物(刃物等)以外は制限していません。また、本人の希望もあり、趣味の書道用品や楽器等を持参いただいています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候や気候にあわせ、利用者に確認を取りながら、適宜、換気と温度調整を行なっています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間各所に手すりや段差が生じた箇所にスロープを設置しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人に認知能力に合わせ、各居室やトイレに目印や名札をつけ、認識していただきやすいよう配慮しています。(居室入口の手作り表札、紙花の目印、風呂場ののれん等)		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	食堂やリビングから眺められる場所に花壇があり、庭には物干し場が、施設周囲には安全に散歩できるスペースがあり、好天時、外でお茶が飲めるベンチなど自由に活用できるようにしています。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

鹿児島県 グループホームそら

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症専門の施設として、安心・安全な施設作りを目指し、日々取り組んでいます。利用者と共に生活する時間・空間を大切に、利用者本位のケアを実践する事で、その人らしい生き方を出来る限り続けていけるよう支援しています。職員が出勤した際は利用者との挨拶時に握手し、体調の管理やコミュニケーションの円滑化に役立てている他、エレガンス療法として、化粧・オイルマッサージの実践・支援を重点的に取り組んでいます。